

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第1回 上越市特別職報酬等審議会

2 議題

- (1) 審議会の役割、所掌事項、これまでの審議内容等について（公開）
- (2) 令和6年度の特別職報酬等の取扱いについて（公開）
- (3) その他（公開）

3 開催日時

令和7年1月29日（水）午前10時00分から

4 開催場所

上越市役所 木田第一庁舎 4階 401会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）の氏名（委員敬称略、50音順）

- ・委員：江村委員、大瀧委員、日馬委員、高橋委員（会長）、竹内委員、
羽深（浩）委員、樋口委員、本山委員、山崎委員
- ・事務局：八木副市長、笹川総務部長
人事課 水澤課長、平原副課長、羽深副課長、三田主任

8 発言の内容

○開会

- ・委員の過半数の出席を確認。上越市特別職報酬等審議会条例第5条の規定により、本審議会が成立していることを報告。

○委員自己紹介

○副市長挨拶

○会長選出

- － 委員からの意見がなく、事務局案として高橋委員を提案し、異議なし －

○会長職務代理者の指定

- － 会長が日馬委員を指定 －

○議事

【高橋会長】

議題(1)について、事務局に説明を求める。

【水澤人事課長】

－ 資料 1～3 に基づき説明 －

【高橋会長】

説明に対し、委員の皆さんから質問、意見を求める。

－ 質問・意見なし －

【高橋会長】

議題(2)について、事務局に説明を求める。

【水澤人事課長】

－ 資料 4 に基づき説明 －

【高橋会長】

説明に対し、委員の皆さんから質問、意見を求める。

【日馬委員】

先ほどの事務局からの説明の直近の地域の社会情勢等ということで、当金庫のお客様からいただいている景気動向調査の結果を資料に記載してもらっているが、皆様お気づきのように、私どものお客様は中小企業のお客様が 100%である。資料にも書いてあるが、10月から12月に関しては、若干売り上げ等もコロナ前に戻ってきたというところもあり、そういう意味での改善、それから収益的にも、価格転嫁等が 100%ではないが、できた企業もあったということで、小幅に改善基調が持続しているというような結果にはなっている。しかし、この先、年が変わって、1月から3月、来年度と言うと4月からは、まだまだ先行きが非常に不確実で不透明だということもあり、大半のお客様がどのようになるかわからないというようなことで、ネガティブなアンケート結果を示されたお客様が多くいた。私どもは限られた地域のお客様約 300社を対象にした景気動向のアンケートであり、業種によっては数社というようなアンケートとなっているため、1社が変わるだけで統計が変わるというようなことが起きる。そのことを踏まえながら、皆さんに見ていただいているというような状況だが、やはり中小零細、それから小規模事業者様におかれては、売り上げはある程度戻っても利益がまだまだというところ、非常に厳しい中で、世の中の動きとしてベースアップを防衛的にせざるを得ない。人員を確保するためには、どうしてもベースアップしなくてははいけ

ないというような厳しい環境の中で、給料をベースアップしているというのが、昨年度のベースアップであった。今年度に関しても、やはりベースアップをしなくてはいけないということで、一般職についてはベースアップを実施するというような企業、取引先が多いと思うが、利益が出てない中でのベースアップなので、社長の報酬、役員報酬までまだ上げられないというような状況にあるのが大半の企業である。そんな中で、今回の結論を出された今後の方向性について、私としても正しい方向性ではないかなと思っている。

【竹内委員】

この場で言うことではないかもしれないが、政務活動費について、人によっては使いきれずに返納していたりすることがあるが、活動してないと二期目は市民から批判されて、落選ということもある。それは別として、市の一般職は地方公務員法で業績評定をやっているが、特別職については上越市はやっていないと思う。ネットで調べたら、大阪の寝屋川市は、市民から特別職の評価を受けて、それを反映しているが、上越市はそういうことを考えているのか。市長の発言や教育長だと学校で何か問題があった際、教育委員会に上がってなかったという記事が去年出たりしているので、それがちょっと気になっているのと、資料にあるように、近隣や同規模のところとの比較は今回出ているので分かったが、財政状況も出ているけれども、先ほどあったように、上越市の企業は、勤めている人の給料を上げる、ベースアップみたいなのところがあったりして、しなければいけないという話が今あったが、最近で言うと卵や野菜も高いし、物価が給料の上昇以上に上がって苦しい中で、今回、特別職のアップがないので、それはいいのかと。みんなそれなりに評価されて、市民が納得する額であれば、誰も後ろ指指さないと思う。私個人としては上げなくていいと思うが、特別職の評価をやることは考えているのか。

【笹川総務部長】

特別職の評価について、私共も寝屋川市でアンケートみたいなことをやって、給与の額に反映するという動きがあるのは承知しており、そういったことをやっているのはごく珍しい例である。基本的に政治家であるので、4年に一度の選挙が、まさにその評価である。そこについて我々事務職がどうこういうことはできないので、そこについては、それぞれまた選挙の際に、市民の皆様から判断をいただくことになる。

また、我々一般職の職員の給料ということになると、生活給、生活に対するものであるので、物価上昇等を勘案して、人事院や新潟県人事委員会の勧告をベースにしな

がら給与アップをするが、特別職の給料というのは、性質、性格からすると仕事に対する対価ということなので、物価上昇等を直接的に反映することはなく、上越市の市長としてふさわしい額は本来いくらであるかということ、今の説明してきた観点から勘案をして、我々事務局としては適当という考え方で、今回据え置くという整理をさせていただいた。

【本山委員】

今、話があったように、一般職と違って生活給ではないという考え方、そして今回は据え置くということについてはそうだなと思う。私の認識不足で申し訳ないが、市長、副市長の給料月額について、現在 15%、10%、これは前から減額していて、これは政治的判断によるものなのか。かなりの減額なので大丈夫なのかということを知りたいのと、それから、議員の政務活動費について、国会でも問題になっているが、議員個々の使途など、どこかで公表・確認できるようになっているのかお聞きしたい。

【笹川総務部長】

市長、副市長の 15%、10%の減額は、本来あるべき額というのは、皆様からご審議いただいている。今回の減額については、人口減少の緩和等に目途がつくまでということで政治的判断により自ら行っているものであり、それが続いているという状況である。その他の事例としては、何か不祥事等があったときに、自らを罰するために減額するというのも、自ら判断されるということになるため、そういった政治的判断による減額は、ご自身の判断でされている。

それから、政務活動費について、使ったときに議員の方から、領収書等を添付して議会事務局へ提出し、検査を受けた上で、最終的にその内容を公表している。ホームページでも見られるようになっており、市役所でいえば 1 階に市政情報コーナーがあり、そこへ印刷したものを公表しているので、そこに行けばそれぞれの議員がどういったものに政務活動費を使ったかということが確認できる状態になっている。

【竹内委員】

政務活動費について、上越市は 2 人以上で会派を組むことができるが、会派に所属しない議員、いわゆる無所属の議員については会派分の政務活動費は交付されていないということよろしいか。

【笹川総務部長】

議会の取り決めで、2 人以上で会派結成の届けを出せば、1 人当たり 15 万円が支払われる。現在、無所属の議員が 4 人、プラス、議長が会派から離脱することになって

いる。その5人の方には、当然のことながら会派を作っていないので、会派分の15万円は支払われていない。

【高橋会長】

議題(3)について、事務局から何かあるか。

【水澤人事課長】

昨年の審議会において、市長等の給与の改定について答申いただき、3月議会に特別職の給与改定に係る条例案を提出し、総務常任委員会の中で審議された。その中である議員から、特別職の報酬については特別職報酬等審議会で審査され、答申されたというのは理解したが、より広く市民の声を聞く方法を審議会において検討してもらいたいと意見があった。市としては、本審議会は、市民の代表である委員の皆様から広く議論いただき、その意見をいただくことが市民の声であるという認識であるということ答弁したが、議員からの質問や市の考え方について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えている。

【高橋会長】

議会から出された質問ということであるが、報酬審議会というのは、選ばれた委員の皆様がそれぞれの見識をお持ちで審議会に出席されている。そういう前提でないと、委員会を構成できない。この審議会が市民や有識者の意見を聴く場ではないか。

【竹内委員】

政治家なので、当選すると何もなければ4年過ごせる。毎年1回、審議会で審議しているので、例えば1年目につまずいたり、何かトラブルを起こしたりしたという事象があれば、この人はふさわしいのか、もう少し下げて市長として頑張ってもらいたいなという意見があってもいいと思う。それは普通感覚ではないか。

【山崎委員】

この審議会は市長の資質を議論する場ではないとは思っている。もっと広く、多くの方から意見があった方がいいということだったと思うが、もう少し一般公募の方、情熱のある方、本当に上越市を良くしよう、いろんなことを見直すと考えておられる方がおられるのであれば、一般公募の方を増員されるということも可能なのではないか。

【水澤人事課長】

公募の状況を説明すると、現在、委員を10人任命しているが、公募の枠としては3人を想定し、広報等を通じて広く募集をかけたところだが、3人のうち、2人に就任い

ただき、1人欠員という状況である。今、山崎委員からもご指摘いただいたが、より公募が活発になるように、人数の割り当てや募集する際により広く広報するということも含めて、取組も強化してまいりたい。

【竹内委員】

上越市の規模や経済状況からいって、誰がなってもこれぐらい必要だという報酬については賛成である。たまたま当選した人がその中でというだけであって、やり方として、ずっと下げろと言っているわけではなく、現在のやり方のように、市長が自ら条例に出して、自分の給料を下げるというやり方で十分だと思う。絶対に月額を下げろと言っているわけではない。それについて、付け加えさせていただく。

○閉会

9 問合せ先

総務部人事課給与係 TEL : 025-520-5619

E-mail : jinji@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。